

令和8年度「ごみゼロやまがた県民運動」(家庭編) 展開方針参考資料

【過去3年分】

1 食品ロスの削減 R5 R6 R7

<家庭>

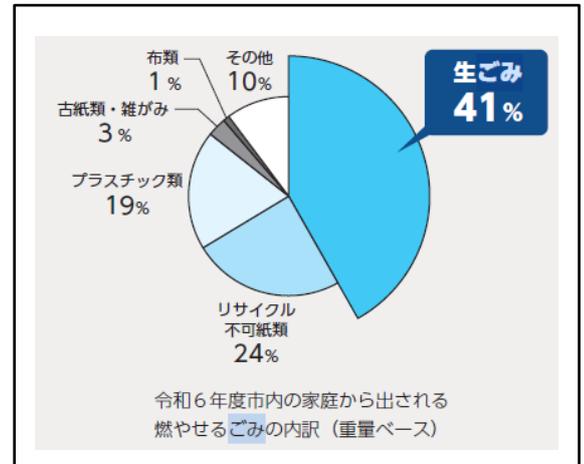
- ・ 「消費期限」と「賞味期限」の正しい理解
- ・ 残っている食材からの利用
- ・ フードドライブへの協力

<買い物>

- ・ 買い物前に冷蔵庫をチェックし、必要な分だけ購入
- ・ 買い物の際は「てまえどり」(商品棚の手前から取る)

<外食>

- ・ 「もったいない山形協力店」の積極利用
- ・ 適量注文、食べきれなかった料理の持ち帰り



出典: 広報やまがた令和7年10月1日

<食品廃棄物量に対する食品ロス量の割合>

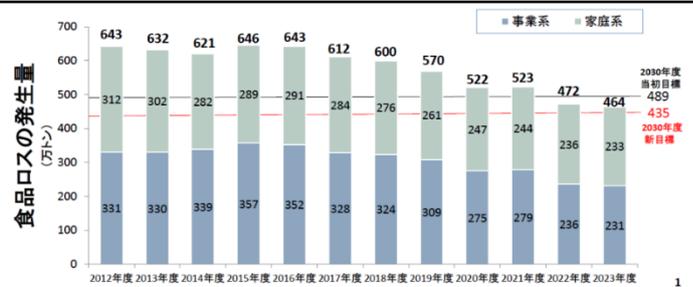
直接廃棄	15.0%:R5 (14.9%:R4)
過剰除去	5.3%:R5 (4.6%:R4)
食べ残し	13.2%:R5 (13.5%:R4)
合計	33.5%:R5 (33.3%:R4)

出典: 令和6年度食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査(環境省)

<食品ロス削減に係る意識調査>

食品ロス削減に現在取り組んでいる又は新たに取り組みたい: 119人(回答者540人の22%)

出典: やまがた環境展2025来場者アンケート



出典: 我が国の食品ロスの発生量の推移等(令和7年6月環境省)

本県の家庭系食品ロス発生量の状況(単位:千トン)

R1	R2	R3	R4	R5
24	22	22	22	20

2 プラスチックごみの削減 R5 R6 R7

- ・ 使い捨てプラスチック製品の辞退
(マイボトル、マイバッグ、アメニティ)
- ・ 詰め替え商品の利用(洗剤、シャンプー等)
- ・ マイバッグ持参で、レジ袋の利用を辞退

- ・ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測(2016世界経済フォーラム年次総会報告書)
- ・ 日本では、3R+Renewable(再生可能資源の活用)を基本原則に、令和元年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定。令和4年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進に関する法律」が施行。
- ・ 海ごみの約7~8割は内陸からのごみであるとされている。また、環境省の調査では、個数ベースで海ごみの84.1%が人工物で、プラスチックは全体の65.8%となっている。
- ・ 山形県では、令和3年3月に「裸足で歩ける庄内海岸」を目指す姿とした、「第2次山形県海岸漂着物対策推進地域計画」を策定。

3 3Rの推進 R5 R6 R7

- ・ 衣類、日用品の長期利用(メンテナンス、修理)
- ・ フリーマーケット、リユースショップの活用
- ・ 資源物(紙類、小型家電、食品トレイなど)の分別回収への協力(市町村・スーパー等)
- ・ 環境にやさしい商品の優先購入

【令和5年度実績】

- ・ 雑がみ回収実施市町村数: 31/35市町村
- ・ 小型家電回収実施市町村数: 35/35市町村
- ・ 資源ごみ 回収量: 23,000トン
(ごみ排出量に対する割合: 6.4%)
- ・ 集団回収 回収量: 12,765トン
(ごみ排出量に対する割合: 3.6%)
- ・ 店頭回収 回収量: 7,197トン
(ごみ排出量に対する割合: 2.0%)